

一人ひとりのいのちの記録  
忘れない千葉空襲

来る 2015 年の夏、千葉市空襲とアジア太平洋戦争終結 70 周年を迎えます。戦争末期、日本本土は米軍による空襲にさらされ、全国の犠牲者は原爆犠牲者も含めて 50 万人とも言われますが、千葉市では、5 月 8 日、6 月 10 日、7 月 7 日の空襲で約 900 人の市民が犠牲になりました。

かつてこの地で実際にあった戦争の空襲犠牲者の生きた証として一人ひとりのお名前を遺すことは、平和を祈念する上でも大切なことです。

私たちは「千葉市空襲と戦争を語る会」と「ちば・戦争体験を伝える会」の協力の下、2009 年から犠牲者の名簿作成を開始し、市民の皆さまからの多くの情報により、ようやく約 700 名が名簿に記されました。まだ名前が不明の方がおられますが、時間は経過し確認はいよいよ困難となります。70 年平和が続いた証としての意味も込め、これまで明らかにされた名簿に基づいて、お名前を刻んだ平和祈念碑を建立します。

千葉市は 1995 年の千葉市空襲 50 周年に千葉市平和都市宣言をしております。この精神を一層高め広げるために、皆さまのご賛同とご協力を、お願い申し上げます。

## 千葉市空襲の概要

5 月 8 日昼頃の空襲は、米軍艦載機による蘇我町の日立航空機工場と近隣の住宅・住民への銃撃で、機銃掃射で死者・負傷者が出ていますが、全容は明らかではありません。6 月 10 日早朝 8 時頃の空襲では、第 1 目標の日立航空機工場への爆撃は蘇我町 1 丁目の住宅地に落ちて、住民 242 人が犠牲になりました。さらに B29 編隊は、市街地を飛行し、寒川 3 丁目・2 丁目・1 丁目・港町・新宿町・新田町・新町・富士見町等を連続的に爆撃し、千葉県立高等女学校、千葉復活教会、千葉病院、千葉女子師範学校、省線千葉機関庫等が被害を受けました。罹災面積は 0.26km<sup>2</sup>、死傷者 391 名、罹災戸数は 415 戸。

7 月 6 日深夜から 7 日の夜間焼夷弾攻撃（七夕空襲）の目標は千葉市街地で、さらに艦載機の機銃掃射が加わりました。吾妻町・本町・東本町・通町・院内町・要町・栄町・祐光町・道場北町・道場南町・亀井町・千葉寺町・長洲町・弁天町・富士見町・新町・新田町・新宿町・神明町等、千葉市中心部のほとんどが焼失し、さらに、鉄道第一聯隊（椿森）・気球聯隊・歩兵学校（作草部町）、千葉陸軍高射砲学校（小仲台）等の軍事施設が被害を受けました。罹災面積は 2.05km<sup>2</sup>、死傷者 1204 名、罹災戸数は 8489 戸。

（参考資料：千葉市作成「考えよう平和の大切さ」・千葉市空襲を記録する会編「千葉市空襲の記録」）

二度と悲惨な戦争を繰り返さないために

千葉市空襲犠牲者 刻銘式平和祈念碑建立へ

千葉市空襲犠牲者刻銘式平和祈念碑建立実行委員会